“未来へ繋ぐ”60周年記念式典開催

― 京都代協 ―

188名が出席した祝賀会

京都代協（安井義幸会長）は1月27日午後2時半から、京都市下京区のリーガロイヤルホテル京都で60周年記念式典を開催した。式典・記念講演には会員と来賓として山下晃正京都府副知事、坂越健一京都市副市長、黒田正二財務省近畿財務局理財部金融監督官、および泉健太、田中英之、北神圭朗衆議院議員、岡本和徳、田中健志、磯野勝京都府議会議員ならびに中野将人損保協会近畿支部京都損保会会長、日本代協から小田島綾子会長、小俣藤夫近畿担当副会長、中島克海副会長、金澤亨専務理事、服部典正奈良県代協会長、山口裕貴滋賀県代協会長、新谷香代子大阪代協会長、先小山剛兵庫県代協会長、坂本正和和歌山県代協会長、塩野忠埼玉県代協会長、小平高義全国損保代理業政治連盟会長と各損保会社京都支店長ら185名が出席。午後5時45分からの祝賀会には来賓に門川大作京都市市長、前原誠司、勝目康衆議院議員、西田昌司、福山哲郎参議院議員らが駆け付け総勢188名参加の盛大な催しとなった。

チャレンジを忘れずに
安井会長挨拶 今後も変化し、より発展していく

最初に川島基副会長が開会宣言を行い、市川晃副会長が倫理綱領を読み上げた。

安井会長が冒頭挨拶に立ち、「テーマは『未来へ繋ぐ』とした。60年の間には本当にさまざまな変化があり、ここに60周年を迎えることができたのは長きにわたり業界の発展と地位向上に努めてきた諸先輩方のご尽力の賜物と深く感謝申し上げる。ダーウィンの進化論ではないが保険会社、保険代理店は変化をしていくことによって生き残ってきたのだと思う。今後も私たち代理店はチャレンジすることを忘れず、変化し、発展していきたい。そして、皆様からの温かいご支援、変わらぬご指導をいただきながら京都代協をより発展させていきたい」と述べた。

安井会長

続いて来賓紹介と来賓挨拶があった。京都代協では昨年京都府と「損害保険に関する防災連携協定」、京都市と「損害保険に関する連携・協力についての包括連携協定」をそれぞれ締結しており、山下副知事と坂越副市長は府民・市民の発展の土台は安全対策であり今後も連携を密にして損害保険の加入促進等に取り組んでいくことを表明した。

黒田氏は、現在は先行きが急激に変化し予測が難しい、いわゆるVUCA（ブーカ）の時代であり、加えてサステナビリティを中心に据えた経営、経済運営が強く求められるなど時代は大きな変化を迎えている。こうした中、未来を切り開くのは新しいテクノロジーとそれを活用したイノベーションであるが今までにない技術が活用される際には必ず新たなリスクが付随、発生、顕在化してくるため、保険によるリスクヘッジが必要となるとした。

そして、保険代理店は、国民生活の安定や国民経済の健全な発展に重要な役割を担っており、その役割を期待どおりに発揮するには顧客基盤を盤石にしていくという観点も含めて顧客ニーズを踏まえた商品・サービスの提供、提案など、顧客本位の業務運営がこれまで以上に求められることを改めて強調。その上で「貴協会におかれても顧客本位の業務運営ができるよう今後も継続的な支援をお願いしたい。また新たなリスクの発生可能性やその動向についても会員の将来のビジネス機会にもなり得るため、損保協会等と連携を図るなどにより、これを把握・調査し、会員に還元するなどの将来を見据えた取組みを期待している」と述べた。

黒田氏

泉氏は「京都代協の会員数は340店、組織率は80%で日本代協のなかでトップと聞いている。

泉氏

また京都代協はこれまでたびたび金融庁を訪問され、同庁からも強く認識されているのはご承知のとおりだ。これは自分たちの業界を良くしたいだけでなく、お客様にとってよい環境をつくりたいということを第一に考えられているためだと認識している。皆様を取り巻く環境は厳しさを増しているが、皆様がいることで国民がいざというときに困らない、そんな存在になっていただければと思う」とエールを送った。

中野氏は、「損害保険がいざというときに役立つよう、保険会社と連携をしながら代理店として日頃培ってきた顧客対応力を大いに発揮していただきたい。募集人資格の最高峰である損害保険トータルプランナーは2014年に誕生以来、現在1万6182名が全国で活躍している。皆様も業界最高峰のプランナーとして顧客本位の業務運営を実現していただければと思う」と述べた。

「全国の代協を牽引する存在」
小田島会長 三冠王連続8年受賞等を称える

小田島会長は、京都代協の60年の歴史と伝統、会員数の多さとトップの組織率、三冠王連続8年受賞などを称賛し、全国47都道府県の代協を牽引する存在であることに改めて敬意を表し、次のとおり挨拶した。

「昨今、お客様が直面する危険は変化し、形あるものから、目に見えない財産、利益、権利など幅が広くなった。保険代理店は活躍の場が広がると同時に責任も大きなものであることを改めて自覚する必要がある。こうした環境下だからこそ、集い、語らい、高め合う代協の仲間と活動を通じて交流を深め切磋琢磨する。代協活動で得られる、保険会社の枠を超えた代理店経営に必要な情報をぜひご活用いただきたい。あらゆる業界がかつてない変化と向き合い、自社のあり方、進むべき道を模索する中、我々もチャレンジを恐れず、未来志向で進んでまいりましょう」

小田島日本代協会長

小平会長は、京都代協は政連活動においても中核的存在として全国を牽引しており、とくに、正会員個人が政治連盟に原則全員加入するオプトアウト方式で代協会費と合わせ政治連盟会費を口座振替する「京都方式」は現在36代協で採用されており、いち早くスタートしそれが全国展開するようになったことに深く感謝の意を表した。

続いて、60周年を記念して京都府、京都市へ避難所等で使う段ボール製の簡易ベッドを贈呈することとし、安井会長から目録が贈呈され、山下副知事、坂越副市長から感謝状が手渡された。

引き続き功労者表彰が行われ、第8代会長田中康三常務理事、第9代会長小橋信彦顧問（日本代協理事）に感謝状と記念品が贈られた。

この後損害保険トータルプランナー認定授与式があり、小田島会長から認定者に記念品が手渡された。

元阪神タイガース 桧山氏が記念講演

休憩を挟み、阪神タイガースに22年間所属し、現在は野球解説者・スポーツコメンテーターとして活動する桧山進次郎氏を講師に迎え、記念講演「野球で繋がる未来」が行われた。同氏は京都市右京区出身で代打通算158安打（球団単独1位、セ・リーグ歴代2位）、代打通算14本塁打（球団単独1位）、111打点（同1位、同2位）という輝かしい実績を持つ。講演では、人生の大きな選択時やスランプ時の要所要所でキーとなる人物との出会いがあり、人との縁を大切にすることで、仕事や人生が豊かになった経験をユーモアを交えながら軽快なトークで伝えた。

祝賀会は、京都代協の歴代会長とこれまでの歩みを振り返るビデオがスクリーンに映し出され、感動的なオープニングで始まった。

安井会長は、「皆さんに支えられてこれまで歩んでこられたのだと思う。これからも皆様の豊富な経験を伝えていただき、ご指導をいただきながら、脈々と続く京都代協をより盛り上げていきたい」と力強く述べた。

幹部役員と門川市長で鏡開きが行われ、小田島会長の乾杯の発声で歓談に移った。

歓談中、けん玉対決などのアトラクションがあり、参加者一同で盛り上がった。また前原氏、勝目氏、西田氏、福山氏らが駆け付け、それぞれ祝辞を述べた。

鏡開きの模様

会員数340店、組織率80%で全国トップ

泉健太氏ら国会議員7名、府会議員4名、首長が出席